

2009 年度教員免許状更新講習報告書

2009 年度は教員免許更新講習会を計 5 回(本学主催 2 回、京都大学主催 3 回)行った。

【京都造形芸術大学教員免許状更新講習】

タイトル：コミュニケーション・スキルアップの 3 日間！

主催：京都造形芸術大学アート・コミュニケーション研究センター

開催日：第 1 回（2009 年 7 月 25～27 日）

第 2 回（2009 年 7 月 31～8 月 2 日）

開催場所：京都造形芸術大学，京都大学総合博物館

受講対象：小・中・高校教諭および養護教諭

受講人数：第 1 回 11 名 第 2 回：21 名 合計 32 名

講師：羽下 大信（甲南大学教授 / 臨床心理学、コミュニティ心理学）

大野 照文（京都大学教授，同総合博物館館長 / 古生物学，実践生涯学習学）

福 のり子（京都造形芸術大学教授 / 美術教育学，アート・コミュニケーション）

伊達 隆洋（京都造形芸術大学アート・コミュニケーション研究センター研究員）

申請時にはアート・コミュニケーション研究センターの池田が講師を担当の予定であったが、体調の都合により実施にあたっては伊達が講師を担当した。

概要：

文部科学省委嘱・教員免許状更新講習として「コミュニケーション・スキルアップの 3 日間！」を全 2 回開催。全 3 日間の講習では、1 日目は心理学の観点からのワークショップ、2 日目は観察、推理し、それを「発見」と「伝達」につなぐ博物館でのワーク。そして、3 日目にはコミュニケーションを介した作品制作のワークショップと美術鑑賞の授業を実施した。教員にも子どもたちにとっても大切な、コミュニケーションのあり方・育て方について先生方に考えていただく機会となった。

実施内容：

第 1 回初日の羽下教授によるワークショップでは、思春期の子どもの姿を写した写真と彼らの言葉を集めた写真集を素材に、それらを見て自分の内に引き起こされる感覚を捉えるというワークを行った。このワークは、写真に写っている子どもがどんな人物かを考えるのではなく、子どもの姿や言葉によって自分に何が引き起こされるかを考えることで、

「子どもをわかる」ことよりも、「子どもに関わる」ための手がかりを探るトレーニングといえる。しかし、職業柄のためか、先生方からの意見では「この子はこんな子だ」という人物像の評価に偏り、自身の感覚を率直に語ることへの抵抗が大きい様子であった。

このため、第2回の初日の午前中を、「自分自身」に焦点をあてたワークショップに変更し、ウォーミングアップを行った。この改善により、午後のワークショップも深まりをみせ、「自分の感覚や経験から湧いてきたものに対して、正直に考えていってよいという感じがあり、安心感があります」「今までどのように自分自身が生きてきたのか、また、そのように感じるのなぜなのか、白昼にさらけ出すような感覚すら持ちました」「リスニングとは、相手が何を言いたいのかを正確にとらえることではなく、相手が話していることに、短く軽やかに答えていくことであり、また、その時にわき上がった自分の気持ちを消さないこと、その気持ちに気づくことだということが分かりました」「長い間、自分が同じポジションにいと、物の見方が固定化していることに気づきショックでした」といった率直な言葉が先生方から語られるようになった。

2日目の大野教授のワークショップでは、観察と自分たちが現在持っている知識とを材料に、コミュニケーションと推理を使って対象に迫るというワークショップを行った。二枚貝の貝殻や、三葉虫の化石を手に、童心に帰ったかのように夢中で話し合う先生方の姿が印象的であった。受講後のレポートにも「コミュニケーションが深まると、何を言おうとされているのか、よりよく受け取ろう、受け取りたいと感じて参加していたように思います。これまでの経験知識をフル稼働させてコミュニケーションをしていきたいと思いました」といった言葉がみられた。

3日目は午前中を伊達がワークショップ、午後は福による講義と作品鑑賞を行った。午前中は「あなたがつくる、わたしの作品」と題し、コミュニケーションを介させた制作のワークショップを行った。また第2回では、コミュニケーションについて受講生の学びが進んでいる状況から、よりコミュニケーションに重点をおいた対話のワークショップへと内容を変更した。午後は福によるアートとコミュニケーションについての講義を行い、その後、対話型の作品鑑賞を行った。

講習前には、先生方の多くは、教師として子どもにコミュニケーションを「指導」する方法を求めている面が強かった。それが、3日間のプログラムを終えた後のレポートでは、「自分はなぜ一面的にしか考えられないのか考えはじめています。まだまだ修行かと...」「子どものコミュニケーション力を高めるために...と最初はそんな風に思っていたが、それは思い上がりでした」「自分の浅い経験や知識で物事を決めつけず、他者のことばに耳を傾けて考えることをしなければならぬと思います」「これを機会に、前向きに自分のスキルアップをはかっていかなければと強く思いました」「コミュニケーションとは何ぞや、何することなんだとたくさん考えたこと自体が、子どもとのコミュニケーションに役立つと思う」といった、教師自身も「学ぶ立場」であるという認識に立った言及に変わっていった。

今後に向けて：

教員免許状更新の制度は先行きが不透明であり、今回のような講習が継続して行われていくかは分からない。とはいえ、今回の講習では 9 割以上の受講生から最高度の評価を得ることができた（文科省指定様式による満足度評価）。また、受講生の中には、今年度の免許更新の対象者ではないにも関わらず、自主的に（しかも全て自費で）参加された教員も複数みられた。つまり、コミュニケーションを軸とするこうした取り組みへの教育現場からのニーズは高いといえる。今後、このようなニーズに制度上の講座開講だけではない形の対応を考えていかねばならないだろう。

【京都大学教員免許状更新講習】

タイトル：理科大好きな先生に変身する 3 日間

主催：京都大学

開催日：第 1 回（2009 年 6 月 6、7、13 日）

第 2 回（2009 年 6 月 20、21、27 日）

第 3 回（2009 年 7 月 22、23、24 日）

開催場所：京都大学（吉田キャンパス）

受講対象：小学校教諭

講師：大野 照文（京都大学総合博物館教授）、古川 善紹（京都大学理学研究科准教授）、北川 政幸（京都大学農学研究科准教授）、守屋 和幸（京都大学情報学研究科教授）、福 のり子（京都造形芸術大学教授）、水野 哲雄（京都造形芸術大学教授）、原田 憲一（京都造形芸術大学教授）

概要：

京都大学主催の教員免許状更新講習では京都大学と京都造形芸術大学が協力して行った。アート・コミュニケーション研究センターからは福が講師として参加。「理科大好きな先生に変身する 3 日間」と題し、芸術と科学の力で「理科ってこんなに楽しい！」と生徒たちに伝えたい先生に 3 日間で変身することを目指した。福による講習では、感性・感覚・対話力の鍛錬と位置づけ、ACOP の作品鑑賞を通じて、見て感じ・考えたことを伝え合うワークを行った。最終日には、受講者が 2 班に分かれて交互に模擬授業を行い、講習の成果を確認した。